

令和元年度
上野法律ビジネス専門学校
学校関係者評価委員会結果報告書

令和2年6月25日

学校法人上野教育学園
上野法律ビジネス専門学校
理事長 久保田 高永
校長 久保田 高永

令和元年度学校関係者評価報告

学校法人上野法律学園上野法律ビジネス専門学校では、本校規程に基づき、学校関係者評価委員会を令和2年6月16日に開催いたしました。以下に、その内容をご報告いたします。

今後は、各評価委員よりの意見等を踏まえまして、教職員一同は更なる専門学校教育の向上及び適正な学校運営の確保に努めていく所存でございます。

引き続き、一層のご支援、ご協力を宜しくお願いいたします。

1. 学校関係者評価委員名簿

氏名	所属	役職等
土川 英司	盛岡市材木町商店街振興会青友会	会長
中野 潤一	株式会社東北銀行	夕顔瀬支店長
清水 友博	盛岡市役所（本校卒業生）	市長公室都市戦略室
吉田 里美	東海住宅株式会社（本校卒業生）	仙台支店
和田 勝弘	上野法律ビジネス専門学校	副校長
五内川幸巨	上野法律ビジネス専門学校	事務局
佐々木 茂	上野法律ビジネス専門学校	教務課
恩田 陽子	上野法律ビジネス専門学校	教務課
東海林千秋	上野法律ビジネス専門学校	教務課
工藤 正剛	上野法律ビジネス専門学校	教務課

2. 委員会次第

- (1) 開会
- (2) 委員紹介
- (2) 学校関係者評価委員会の趣旨・目的等の説明
- (3) 令和元年度自己評価等の結果報告及び質疑応答・意見提言
- (4) その他
- (5) 閉会

3. 内容

副校長和田勝弘より、開会挨拶と委員会の趣旨・目的等の説明を行った後、令和元年度自己評価等の結果を、副校長和田勝弘、事務局五内川幸巨、教務課佐々木茂より、各評価項目について報告を行った。その後、当該報告に基づいて、関係者委員の皆様と質疑応答を行い、意見提言を受けた。

(1) 教育理念・教育目標

教育理念・目的・育人人材像等は各職員に周知徹底しているとともに学生にも学生ハンドブック等を通じ説明している。保護者との連携も保護者会等を通じ強化を図っている。強化についてはより具体的に保護者会の回数の増加等数値で示した方が良いとの指摘を受けた。

(2) 学校運営

学校運営に関しては組織図等を図でわかるよう簡素化した。また個人情報保護等の規定も文書化することができた。理事会については定期的に開催を行っている。

(3) 教育活動

昨年度はインターンシップや企業との連携授業等において、学生の評価表を学生の顔写真入りにする等工夫することにより、企業の方から学生の評価を頂く場合により評価を明確化することができた。委員の方からインターンシップ等で就職先のミスマッチが起りにくくなると評価を頂いた。企業との連携に関しては個人商店と連携をしたり、販売実践授業では企画から販売までのプロセス等もより学生自身で考えさせる必要がある。また、提携先の企業数や企業名などを公開し、より具体化した方が良いとの提言を頂いた。今年度は可能な限り対応することを確認した。

(4) 学修成果

昨年度は早期に内定率 100%を達成できたが今年度は新型コロナの影響もあり全体的に就職活動が遅れているので注意して取り組みたい。また資格に関しては取得率の向上を図る。委員の方から離職率の調査もした方が良いとの提言を頂き、過去に単発的に離職率を調査したことはあるが、今後は継続して調査を行っていくことを確認した。

(5) 学生支援

昨年度より学生が学んでいる資格を実際の仕事に活かしている方々を非常勤講師としてまねき授業を行っているため委員の方から自分の学んでいる資格がどう仕事に活かしていけるかが理解できるとの高評価を頂いた。保護者との連携については来年入学式の後には保護者会を開催し早期に連携を図ることとした。

(6) 教育環境

施設の老朽化が見られるものの、運営に支障をきたす程ではなく、今後も大事に使用していくことを確認した。また、盛岡市主催のシェイクアウトに参加し防災意識の啓蒙に努めている。

(7) 学生募集

昨年度はより SNS を利用した情報を提供しており体験入学の申込などで効果が高いため、SNS を継続して見続けてもらう仕組みを構築しなければならない。また、今後とも安定した学生数の確保に努めていくことを確認した。

(8) 財務

学生数が減っていることから流動資産を注視して事業運営する必要がある。財務情報は HP において情報公開していく。

(9) 法令遵守

昨年度学生寮を購入し適性に法令に遵守し運営をしている。委員の方から新たな取り組みや昨年度との変更があれば HP 等で公開した方が良いとの提言を頂き、可能な限り対応することを確認した。

(10) 社会貢献・地域貢献

地域イベントへの協力・参加や地元商店街との交流等、積極的な活動の実施に評価をいただき、今後も継続していくことを確認した。今年度は新型コロナの影響でイベントの中止が多いが来年度は昨年同様社会や地域に貢献していきたい。

(11) 国際交流

昨年度は留学生と日本人学生が合同で地域振興の現場研修を行っており、今後と同様の交流授業を増やしていきたい。また留学生の卒業後の進路も数値化し、例えば地元就職等の貢献など公開した方が良いと提言を受け、今後是对応することを確認した。

4. まとめ

全体を通じて、質の高い教育が実践されているとの評価をいただいた。高い就職率や実践授業、社会・地域貢献だけではなく、本校の教育理念に基づく全人格的教育に共感をいただいたと考えている。また、岩手の専門学校として地元で役立つ視点・学生の目線での視点そして国際交流の視点等を大切に、今後も地域社会や企業・団体等との連携を図りながら、変化する社会に対応できる人物の育成を行う専門学校として発展ができるように、教職員全員で協力して努めていくことを確認して閉会した。

以上